



インドネシアの正装「バティック」

北陸銀行 国際部
バンクネガラインドネシア駐在
高森 泰大

日本では、仕事をする際のビジネスマンの服装はスーツにネクタイが多いと思います。一方、インドネシアでは多くの方が「バティック」を着て仕事をしています。オフィスビルを訪問しますと、現地の人たちだけでなく、外国人もバティックを着て仕事をしている光景をよく見かけます。

そもそもバティックとは何でしょうか。バティックとは、ろうけつ染の布のことで、日本ではジャワ更紗という名前の方が、馴染みがあるかもしれません。ろうけつ染とは、染めようとする色以外の所を蠟で覆う技法のことを言います。バティックは、インドネシア独自の文化的象徴であり、深淵な哲学に基づくものとして評価を受け、2009年10月2日にユネスコによって世界無形文化遺産に認定されています。

バティックの起源は、古代ヒンドゥー・ジャワ王国の王宮文化にあり、王宮や一部貴族のみ着用が認められている服装でした。そのため、バティックの紋様は王宮を象徴するシンボルだったそうです。その後、一般家庭にもその製法が浸透していき、広く人々に着用されるようになりました。



【バティックが売られている様子①：本人撮影】

バティックの模様は様々なものがありますが、それらは各地域における部族文化の独自性や民族の個性、外来文化の影響を受けており、それぞれに意味があるとも言われています。例えば、ジョグジャカルタやソロは、王宮文化にちなんだ柄が特徴的で、ジャワ島北部のチルボンには、中国やインドの影響がみられる色彩豊かな花鳥柄や幾何学模様の特徴的です。バティックの製法も、手描き、スタンプ、プリントと様々です。手描きのものについては、模様を描き始めてから、染色、仕上げを行うまでに40日はかかると言われています。インドネシアのお土産コーナーでもバティックを見かけることは多いですが、手間・時間がかかっているものは、その分値段に表れています。

普段日本ではスーツを着て仕事をする機会しかないという方も、インドネシアに来てビジネスに携わる機会があれば、バティックを着て仕事をさせていただきたいです。きっと現地の人たちにも喜んでもらえると思います。

以上



【バティックが売られている様子②：本人撮影】

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076) 254-6500 FAX: (076) 254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp